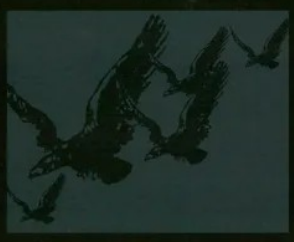
俳句ノ道



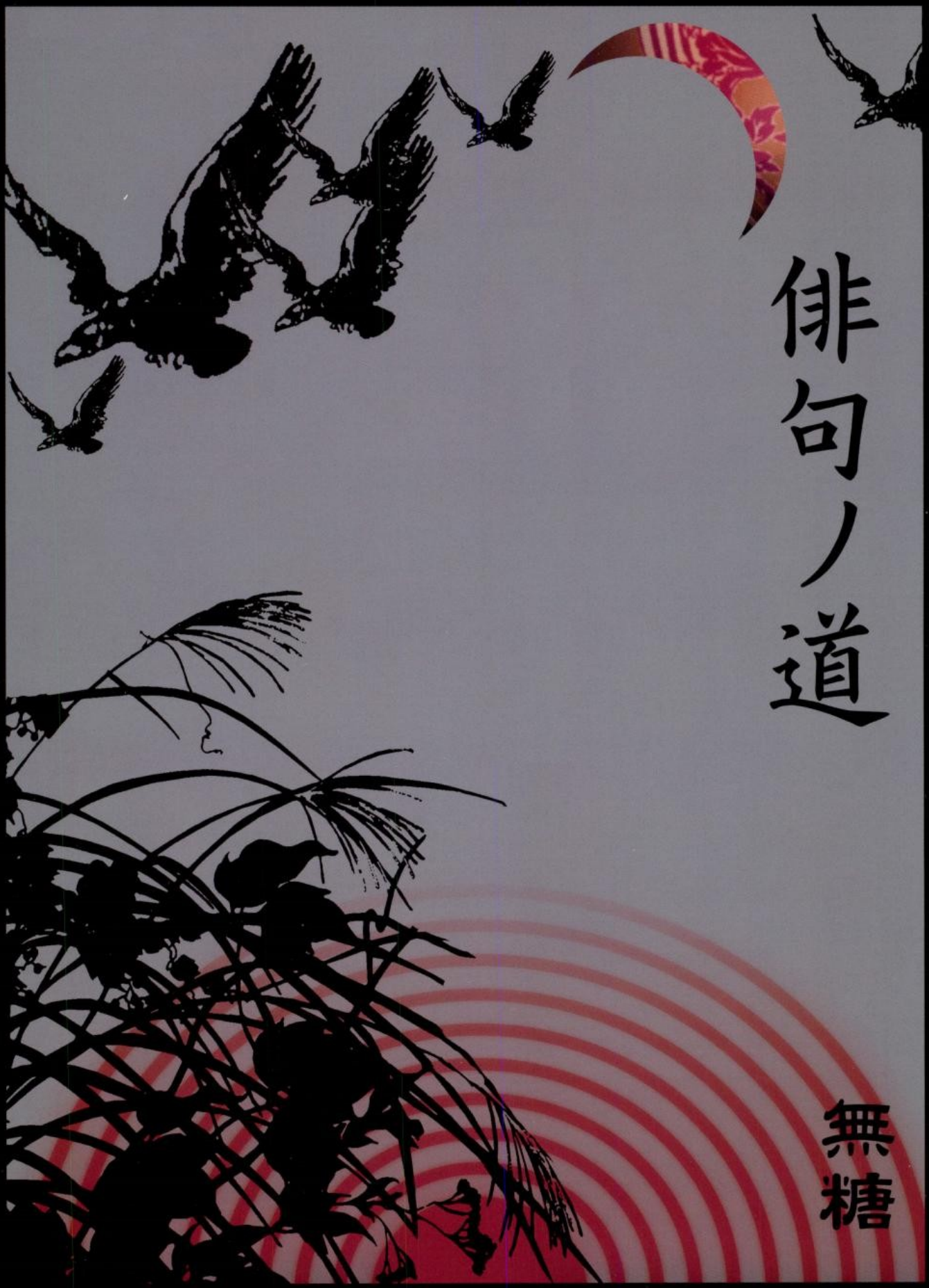
上巻下巻再録

俳句ノ道

上巻下巻再録

無糖

無糖



俳句ノ道

無糖

俳句道
上巻

俳句
下
侍道

無書

俳句道

僕の前には道が有る

ズル
ズル
曽良君！
曽良君てば！
止まって！
止まってー！
…何ですか
うるさいですよ

芭蕉さん
何だじゃないよ！
さっきから何度も
止まってって叫んで
るのに！
私皮ずるむけだよ！
良かったじゃ
ないですかその歳で
剥けてないほうが
あれですから
どこの皮の
事いってんの！？
っっ私の息子は
前から一皮むけとる
わい！
芭蕉さんの皮事情は
どうでもいいです。
疲れてもう歩けない
いうから引っ張って
やってるっていうのに
後ろからぎゃーぎゃー
うるさい…
もっと
やりよう
あるでしょ！？
やりよう？
こんなモノみたいな
運び方じゃなくて…
おんぶとか
だっことかさー

おんぶや
だっこですか…
そうだよ！
あ、でもそのまま
一本背負いにもって
いくのはなしね！
……分かりました
やって
あげます
ですが目の前に
水たまりや川や
底なし沼などが
合った場合は
どうなるか
わかってますね
ソレッ
悲惨な
メモリアルが
バックに！
ごめんなさい！
結構です！
分かれば
良いです
それじゃあ
急ぎましょうか
え！？
ちょ！
縄ほどい…
ずるむけるーーっ！
スタスタスタ
ズルズル
7

茶屋
モグモグ
パクッ
ズズ
フー
すみません
お茶をもう
一杯お願いします。
そ…曽良君…
君…師匠を差し置いて
ずいぶん美味しそうな
もの食べてるねえ…
わ…
私にも
頼んで
くれない？
僕に引っ張らせて
楽をしておいて
団子を欲しがるなんて…
卑しいですよ芭蕉さん
ハー
あれが楽と
いうのなら
市中引き回しの
罪人も楽しとるわ
ーっ！

しかたないですね…
すみませんが
この地べたに転がってる
あそこがずるむけ
おやじにお団子とお茶を
お願いします
あそこって
入れるな！
一気に卑猥に
なるじゃないか！
おまたせ
致しました
あそこがずるむけ
おやじさん
むけては
いますけどずるむけって
ほどではないです！
とっとと
食べて下さい
急がないと
宿に着く前に
日が暮れて
しまいます
わ、分かったから
この縄解いて
くれない？
それぐらい
一人で外して
下さい。
子供じゃあるまいし
こんなぐるぐる
巻きの状態で一人で
外せたら私奇術師に
なれるよ！

パキ
パキ…
……芭蕉さん
芭蕉さんが
もたもたしてる
せいで山道で
野宿するはめに
なりました…
……ごめん
曽良君…
謝るから…

木に吊るすの勘弁してくれないかな!?私スモークされちゃうよ!
め、目が、目があああああああ!
…ううう あやうくスモーク芭蕉にされて美味しく頂かれてしまう所だった
そんな食いでの無いひょろひょろのじじいなんて誰も食べませんよ
ヒョロ
ひょろひょろしとらんよ!ほれこの通りムッチリラリアット!
ぐう
ううう お腹すいた…
お団子食べたきりだもんなあ
あ!

曽良君
何食べてるの!?
曽良君だけ
ずっこい!
さっきの
茶屋で団子
包んでもらって
たんですよ
良いなー!
私も
欲しいー!
ちょーだい!
ちょーだい!
ちょーだい
どうぞ
カツ
クシッ
抜けな
まったく…
緊張感の無い
じじいだ…
2

今がどんだけ
危険な状況か
理解していない…
峠を越えるなら
気をつけ
下さい
あそこはよく
山賊が
出ますから
…山賊…

守りきれるか…

この人を…

ガキッ
めけないよ
黙って下さい
芭蕉さん
ハズブシッ
かんっ
したあああ
…まったく…

嫌な予感はよくあたると
いったもんだ
ちっ
何だよ
しけて
やがんな
ろくなもんが
入ってねぇ

ああああああああ
あああああああああ
あああああ！
うっせぇ
じじいだな
？
何だこの
気色の悪い
人形は
いやにぐったりしてるし
わー！わー！
マーフィー君に
汚い手で触るな！
待ってろ
マーフィー君！
今助け…
頭おかしいのか？
へんてこな人形を
助けるって？
自分の状況
わかってんのかよ！

まったくですよ…
芭蕉さん
え？
変な事ばっか言わないで下さい
ビシッ
ギャン！？
何だお前仲間を蹴ってどういうつもりだ！
ズザザー
仲間？
冗談じゃないですよ
僕がこんな人形に話しかける頭のおかしい奴と仲間なわけないでしょう？
な、なんだとー！酷いぞ曽良君！
師匠に向かって！

師匠って…
お前何か
やってんのか？
ふふふふふっふ
聞いて驚け！
私はかの有名な
俳人！
俳聖とまで
言われた
松尾ば
ふおい！
松尾ばふぉい？
頭のおかしい
じじいの
世迷い事ですよ

…ところで…
殺して
奪った方が
簡単でしょう
金品目当てという
ならば…
何故僕たちを殺さない
んですか?
おうおう
物騒な事言うねぇ
俺たちは盗賊を
生業にしてるが
殺しは極力しねぇ
極力な…
それに
殺しちまったら
もったいねえだろ
あんたみたいな
べっぴんをよ
……
やはりか…

こいつ達
金品目当ての
略奪の他に
人買いも
なりわいに
している…
…ならば…
わかった…
大人しく言う事を
聞くから殺さないで
くれ
ほう…
聞き分けの
いいこって
おい！
そっちの方は
どうすんだ？
あ？
そうだなぁ…
そっちの
兄ちゃんは
十分にいけそうだが
じじいは売れねぇ
からなぁ…
生きて返して
役場に行かれても
めんどくせえし…
殺っちまうか？
グイッ
っう

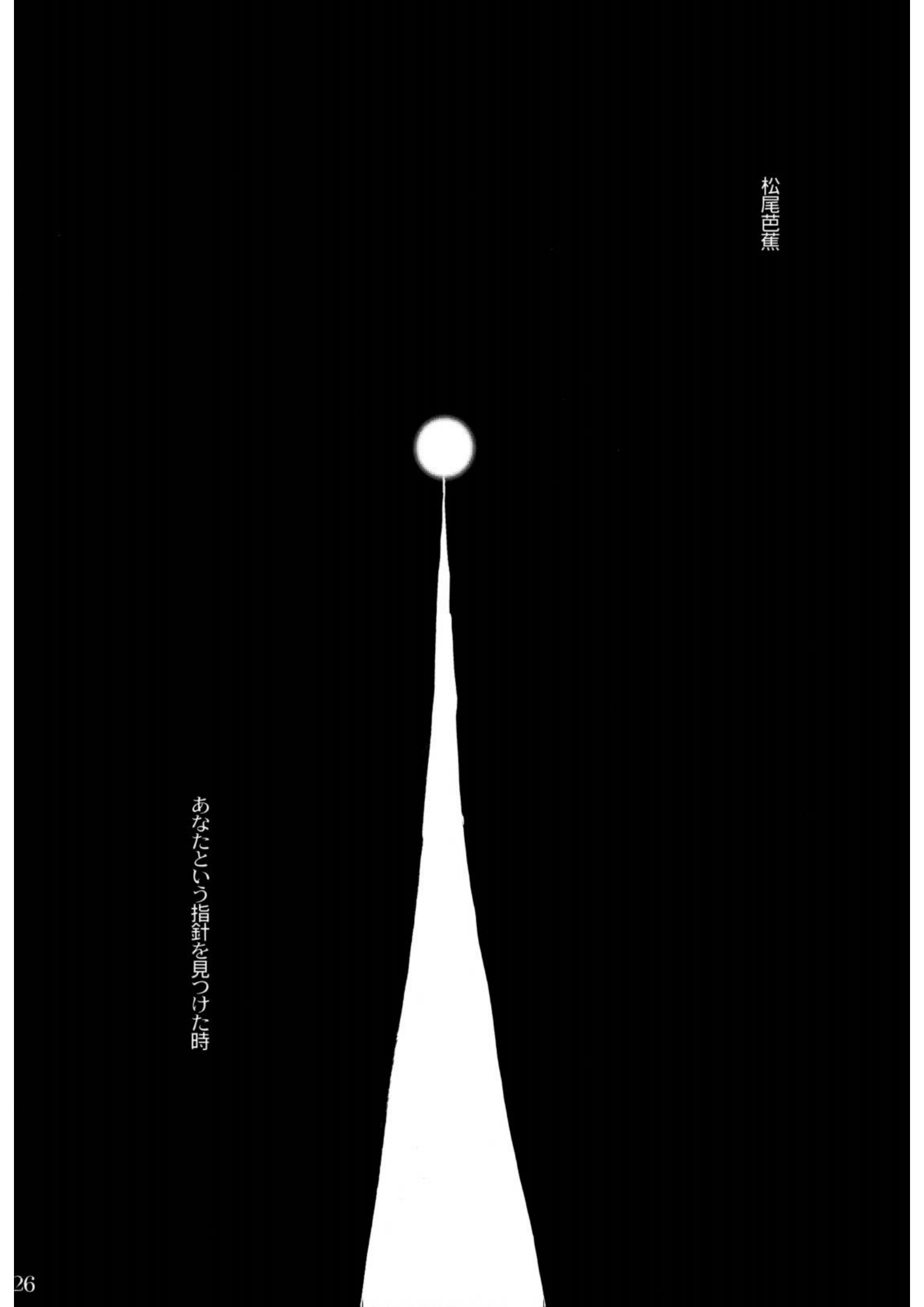
離せ
あ？
なんだあ？
離せ

その人を
離せ
何だこいつ
いきなりっ
そんな頭のおかしい
じいさん1人
ほおっておいても
どうもなりませんよ
……は…はは
そうだな
こんなじじい斬って
刀が血のりで
にぶくなるのも
嫌だしな

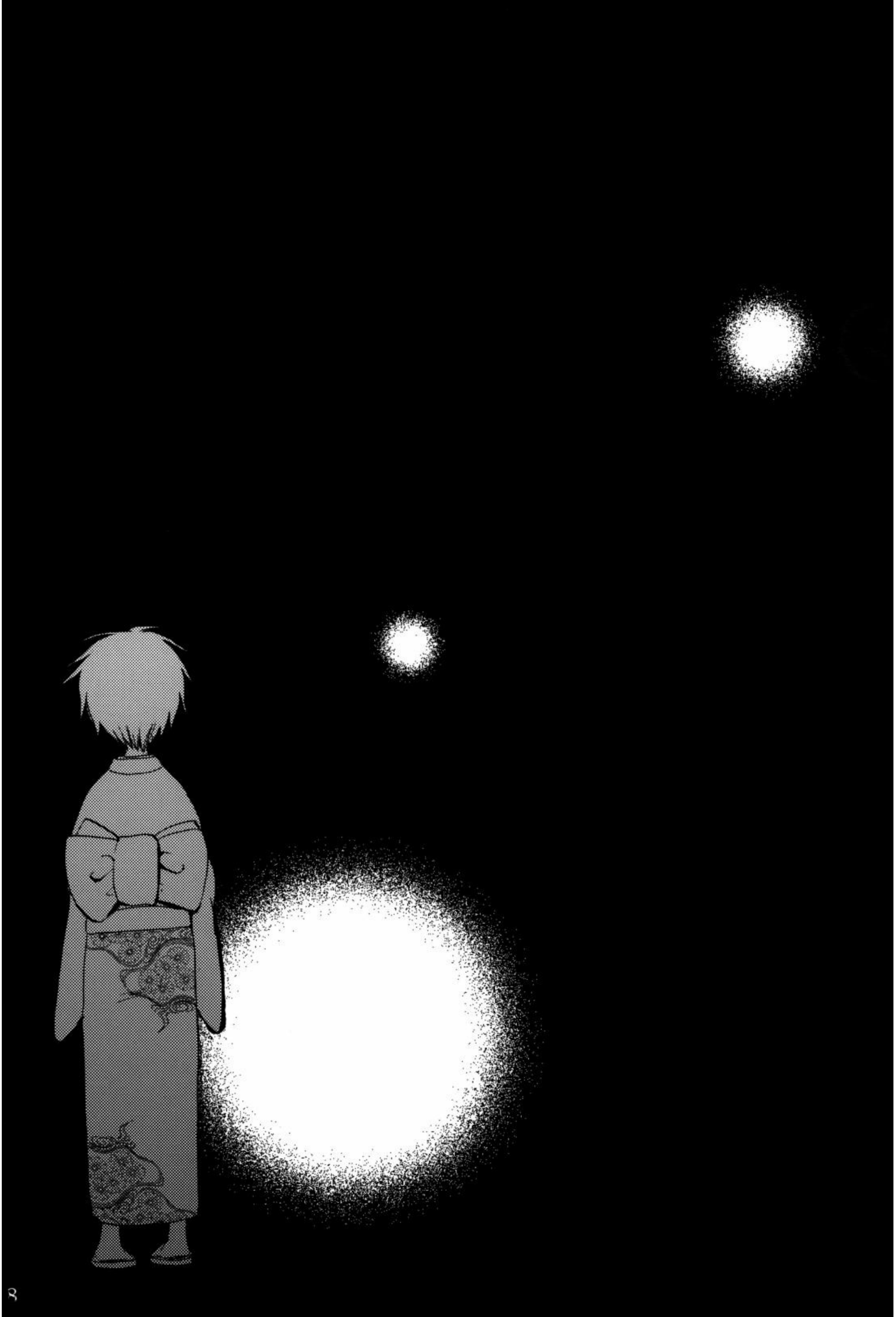
さぁ
行くぞ
大人しく
付いて来いよ

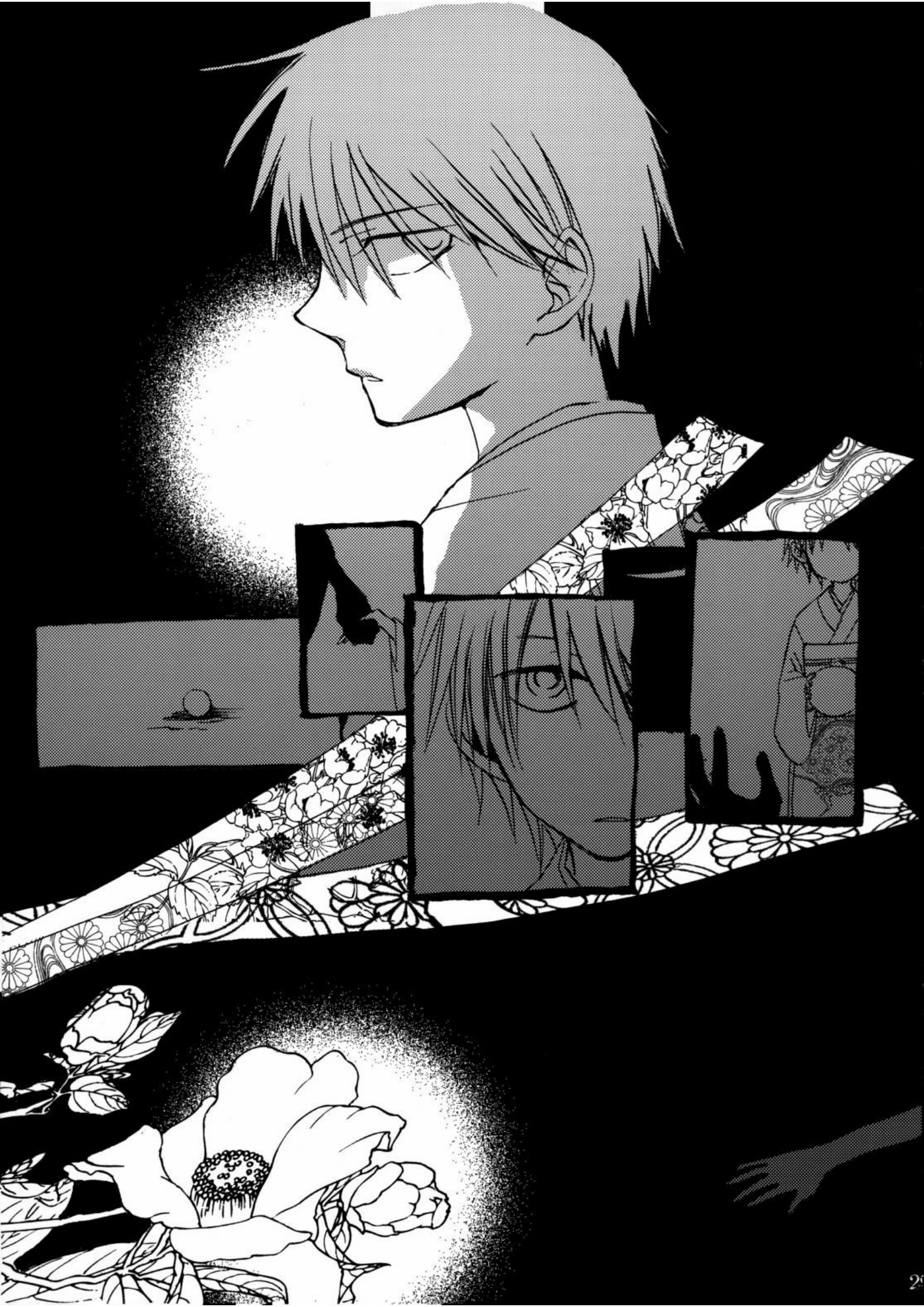
白黒の虚無の世界
そこに道が出来た

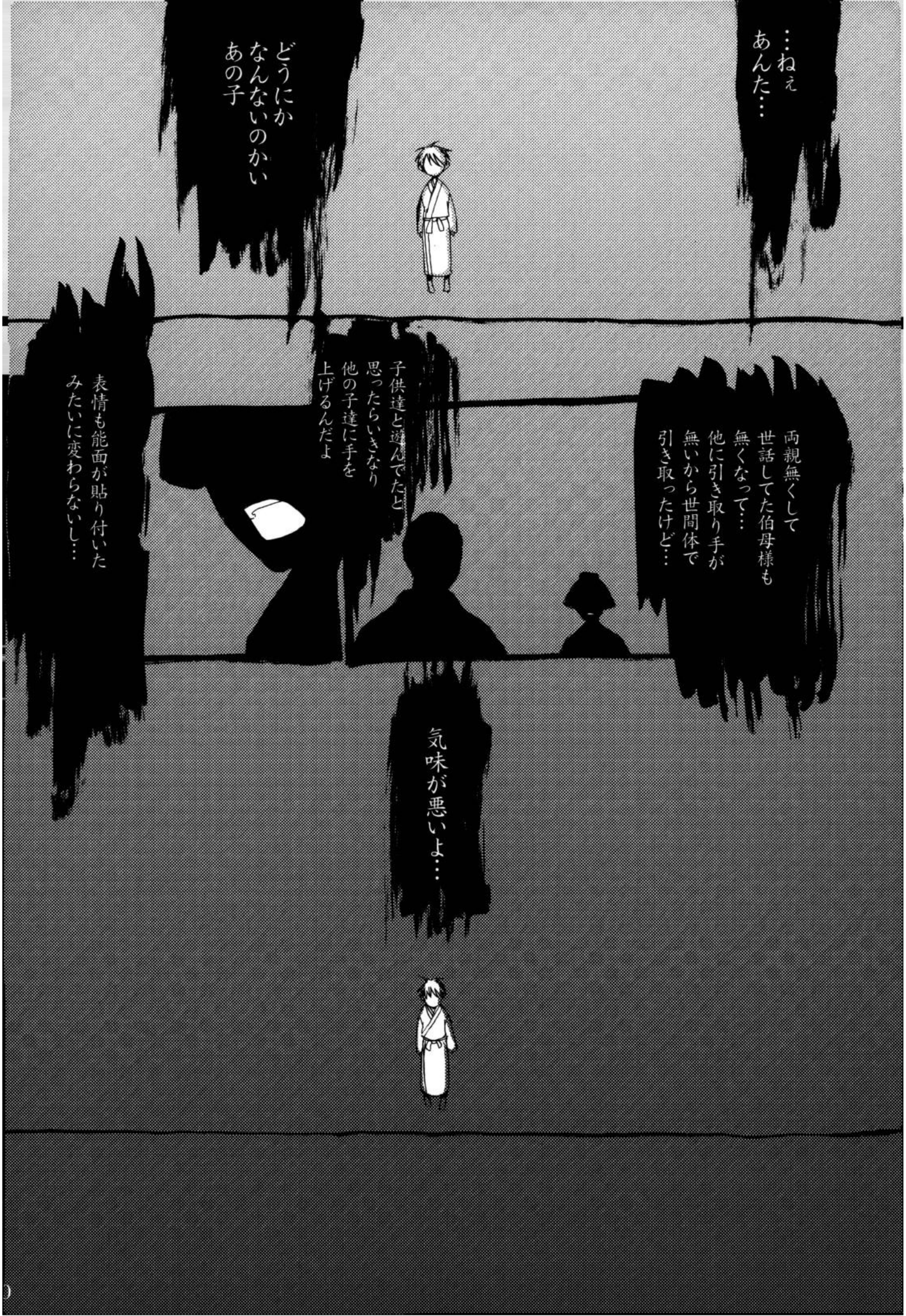
松尾芭蕉



あなたという指針を見つけた時






…ねぇ
あんた…
どうにか
なんないのかい
あの子
両親無くして
世話してた伯母様も
無くなって…
他に引き取り手が
無いから世間体で
引き取ったけど…
子供達と遊んでたと
思ったらいきなり
他の子達に手を
上げるんだよ
表情も能面が貼り付いた
みたいに変わらないし…
気味が悪いよ…

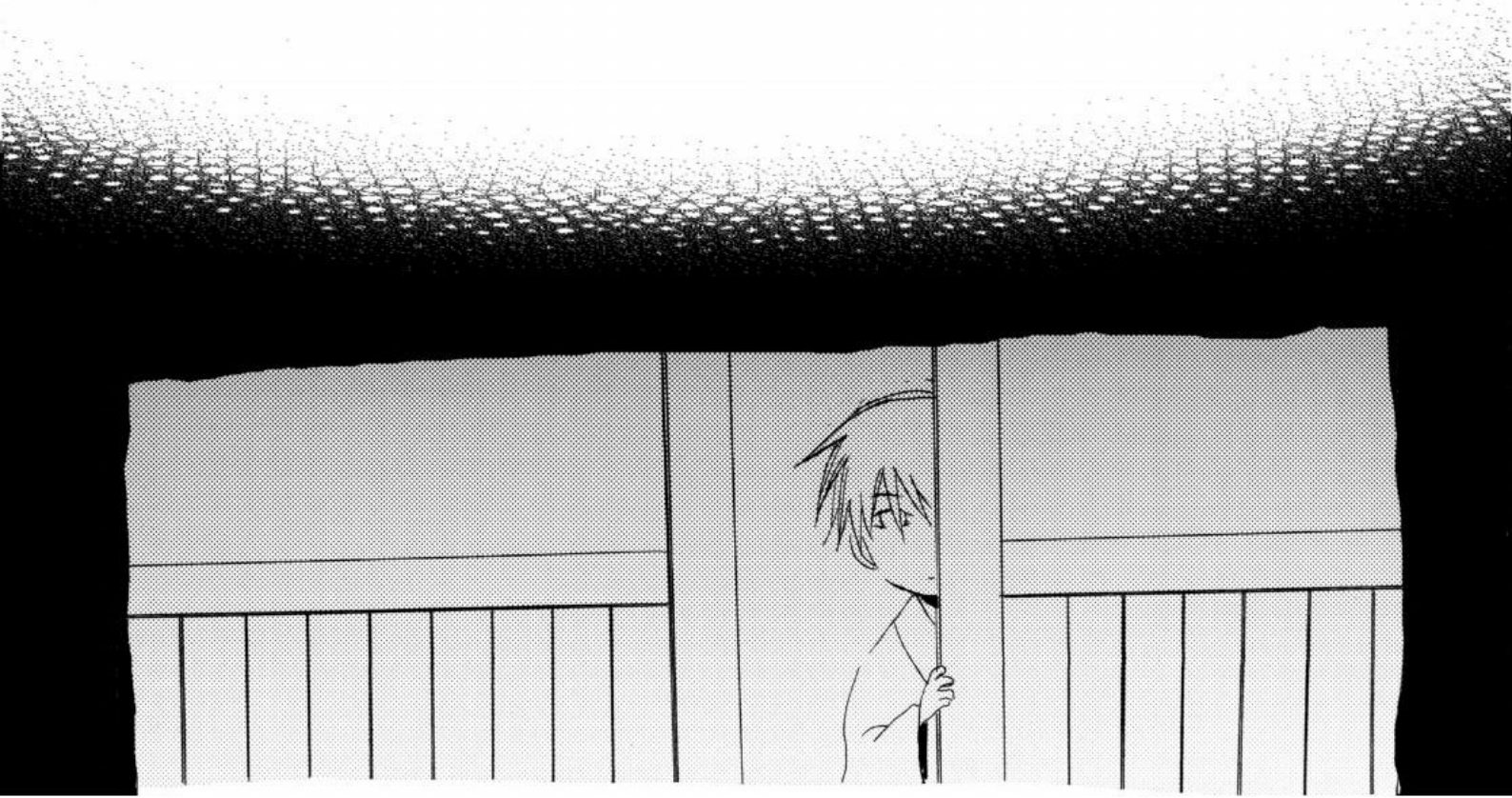
俳句道

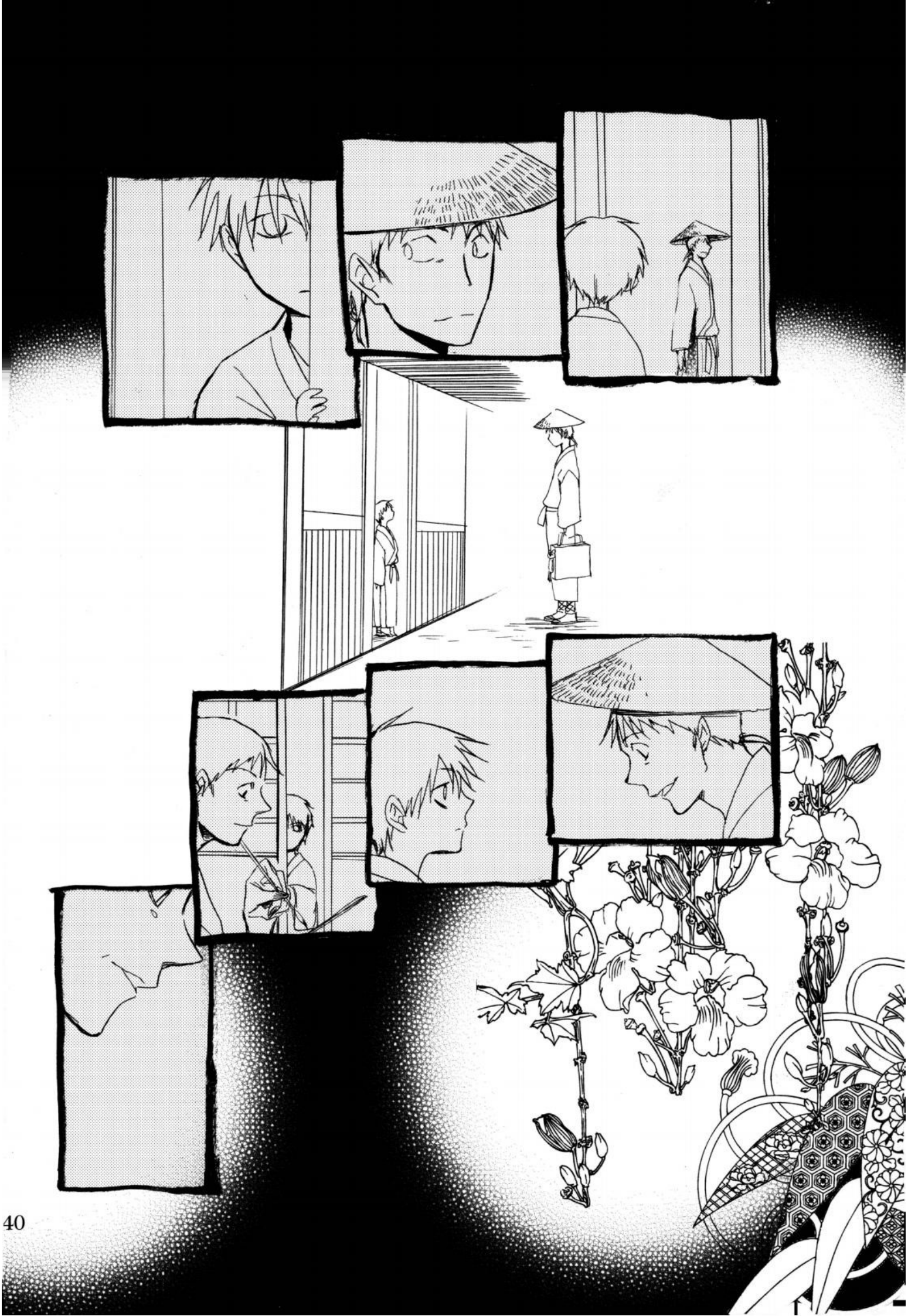
おい兄ちゃん…
これから
売られるってのに
ずい分と落ち着いてて
んなぁ…
どこに売られるか
分かってねぇ
わけでも
あるめぇ
……
なんだぁ…
その態度は…っ
おい止めとけ…
お前酔ってんな
ただの強がりだ
コーラ

口が聞けねぇ
わけじゃねぇんだ
何か言ってみろよ
…そいつは
無理な
話だ
お前達のような
奴にくれてやる
言葉など
持ち合わせて
いないんでな

あ?
つだと?
止めとけって
お前酒入ると
止まらなく
なんだろ
今さっきの
じじいといい…
なめやがって
今の自分の
置かれてる
立場分かってねえな
チッ

お前の
命は俺たちが
にぎってんだぜ
…たく
刀突きつけられて
眉一つ動かさねえたぁ
たいしたキモだ…
怖いものは
何もねえってか?





彼の句を
初めて
聞いたとき

何も感じない
心の中に

鮮やかに響いた彼の言葉

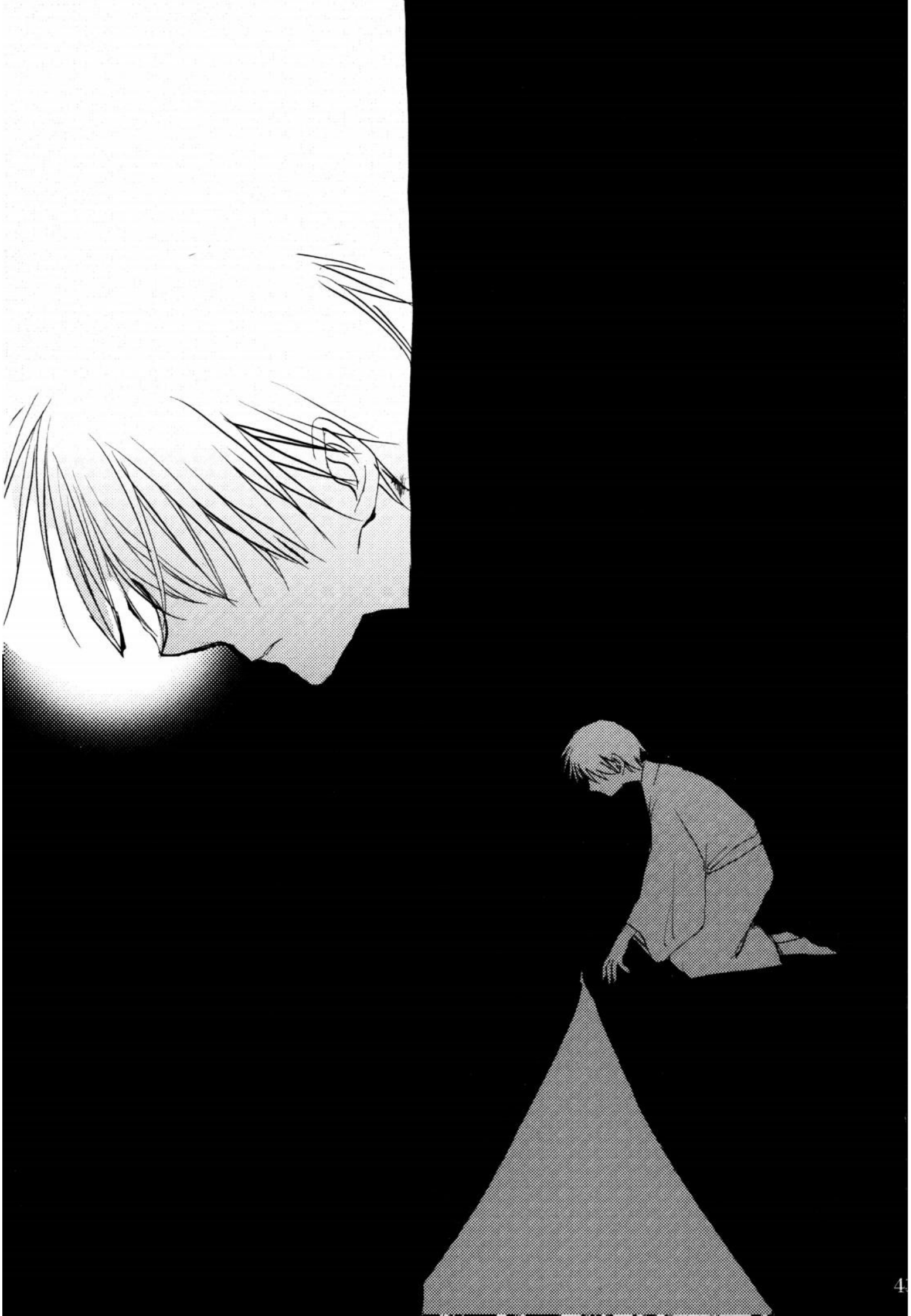
風の息吹

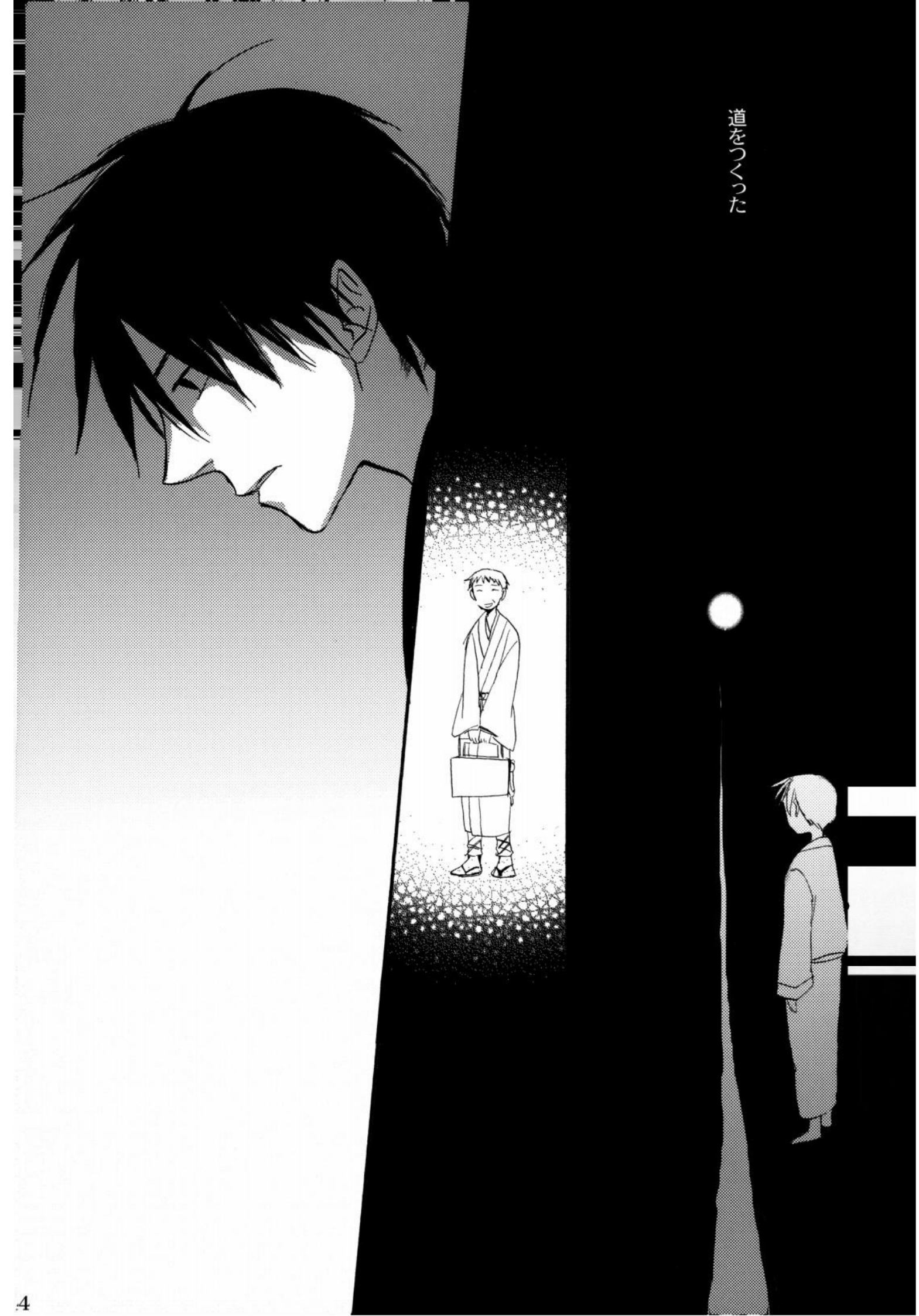
緑のさざなみ

土の匂い

彼の言葉が

僕の世界を…

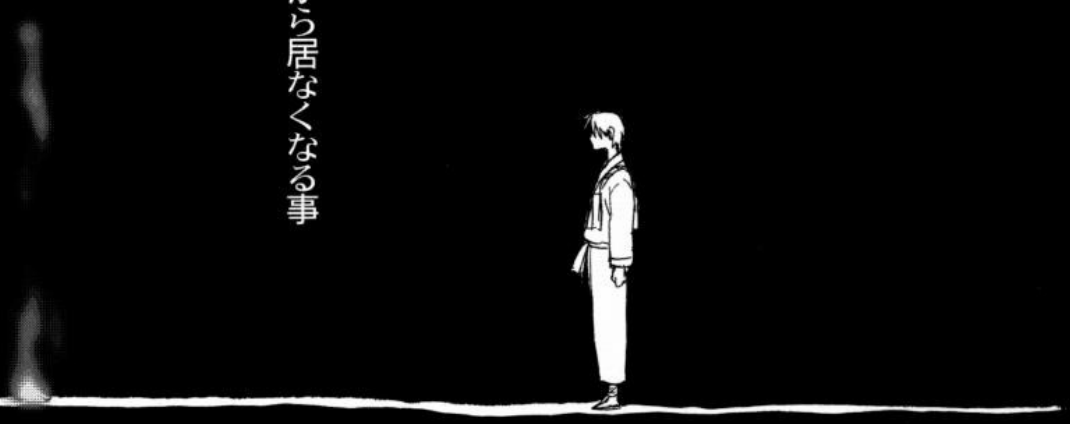


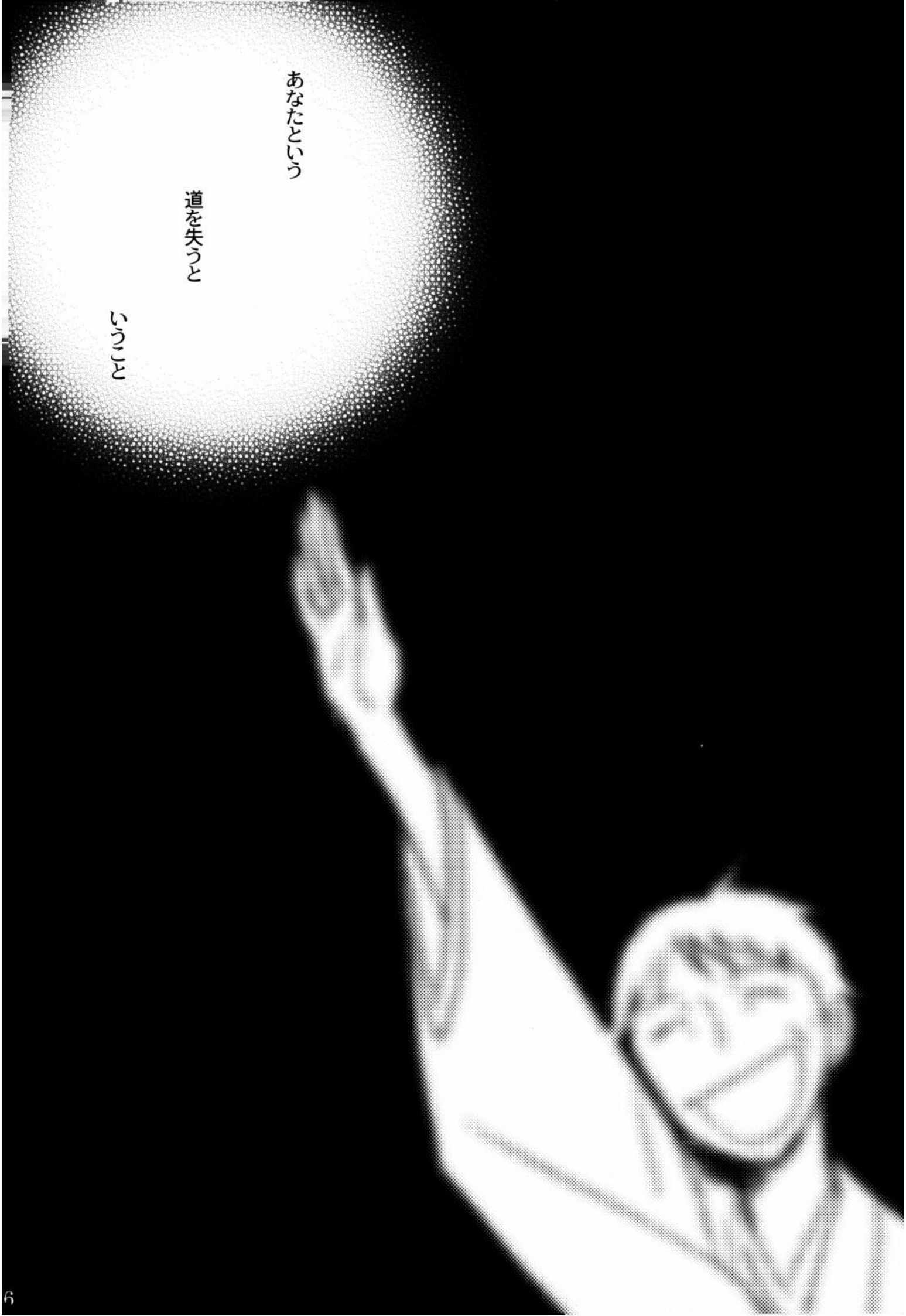

道をつくった

僕の畏怖するもの

それは

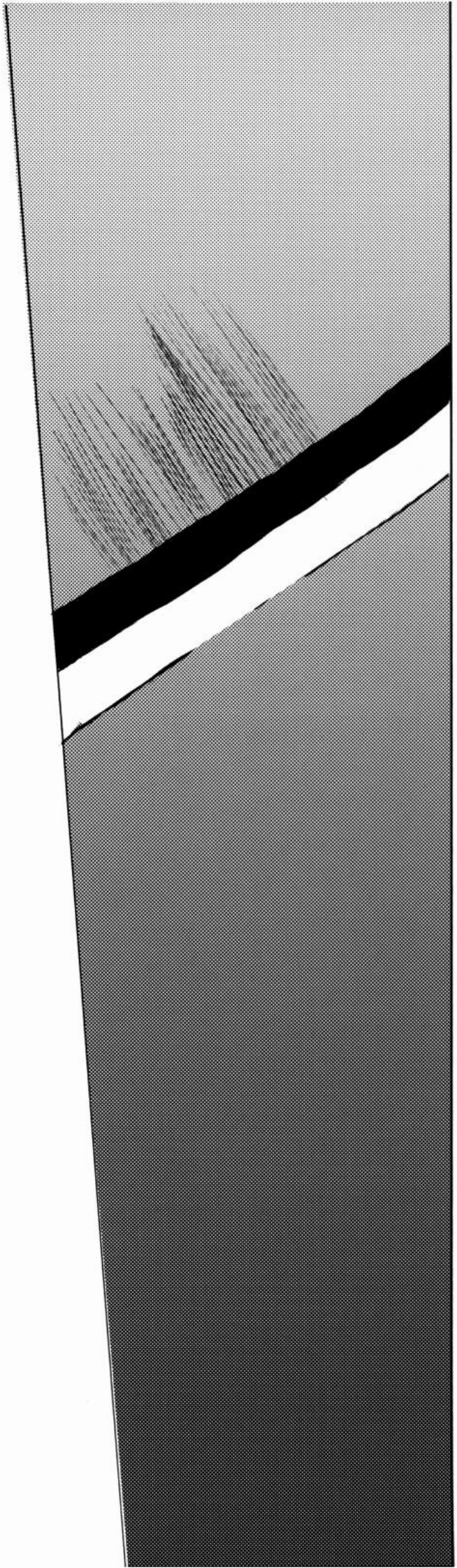
あなたが僕の前から居なくなる事




あなたという
道を失うと
いうこと

なめやがって…
だったら
声上げさせて
やるぜ

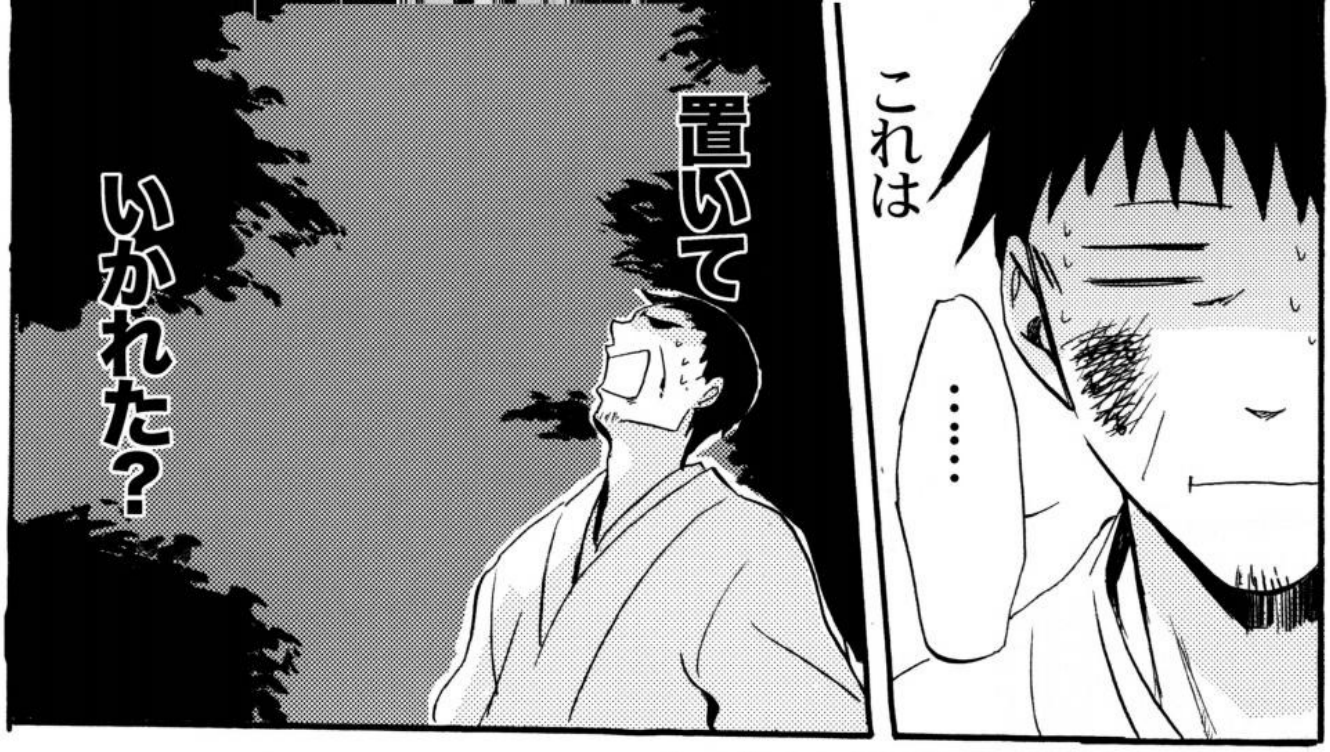
それ以外に無い



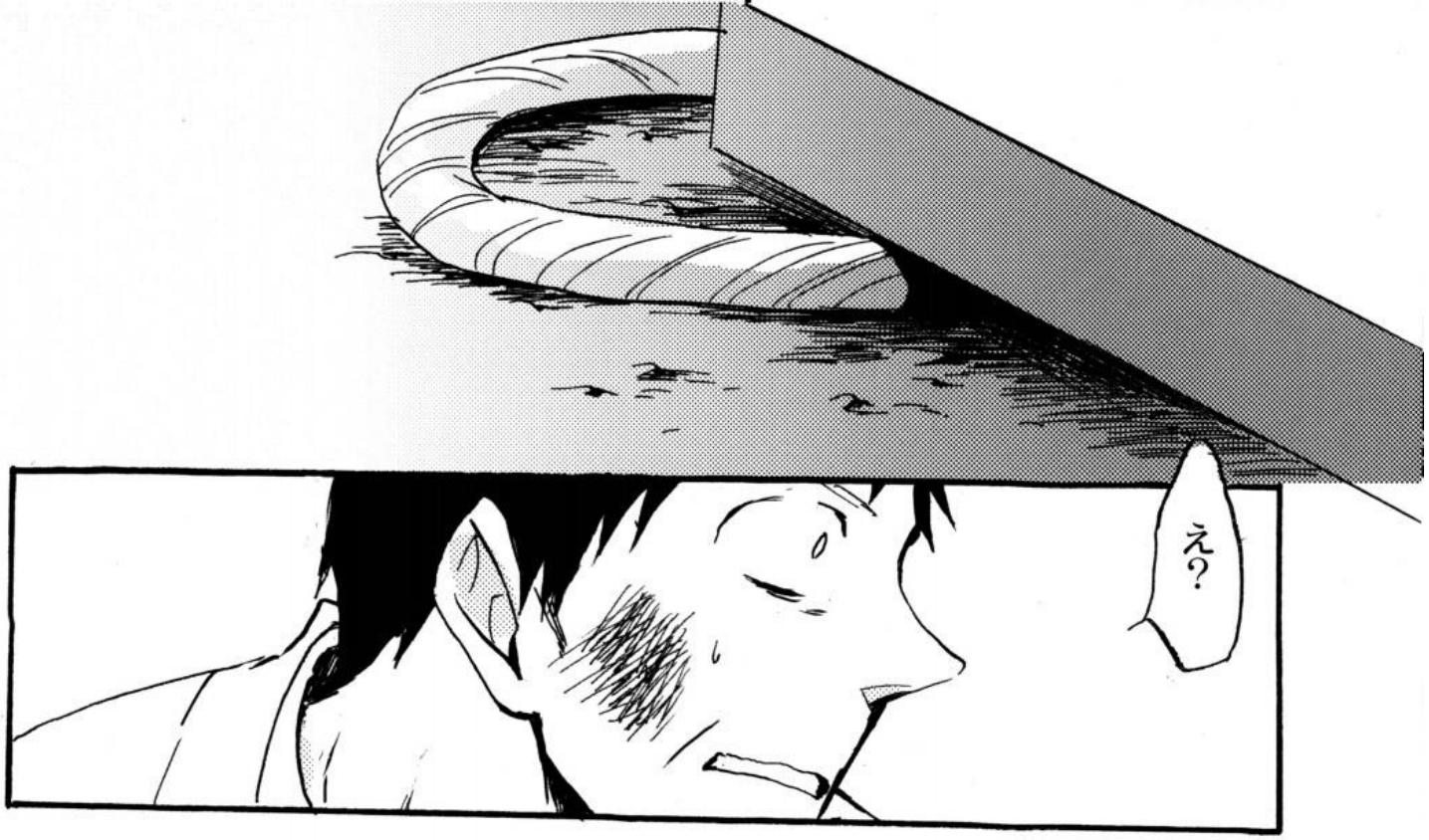
…っ
あたた
…はれ？
…ここ…
何処…？

なんで私
ぶったおれて…
っ！
……って
なんで…
ふおし！
思い出した

この鬼でなし！
曽良野郎っ！
ウギ
よくも師匠の顔面を
全力で蹴ったなー！
そこになおれ！改良型
ムッチリラリアットを
くらわせて
シ
ン
曽良君？
あれ？
曽良君ー？
曽良くーん！
鬼弟子
曽良君ーーっ！
返事しろー！


これは
……
置いて
いかれた？

うわーっ！
曽良君のばか
ーっ！
置いて行く事
ないじゃないかっ！
それもこんな
山の中にっ！
怖すぎるっ！
置き去りにするに
するにしても縄
外していけーっ！
今さっきみたいに
変な奴らに
襲われたらどうすん…

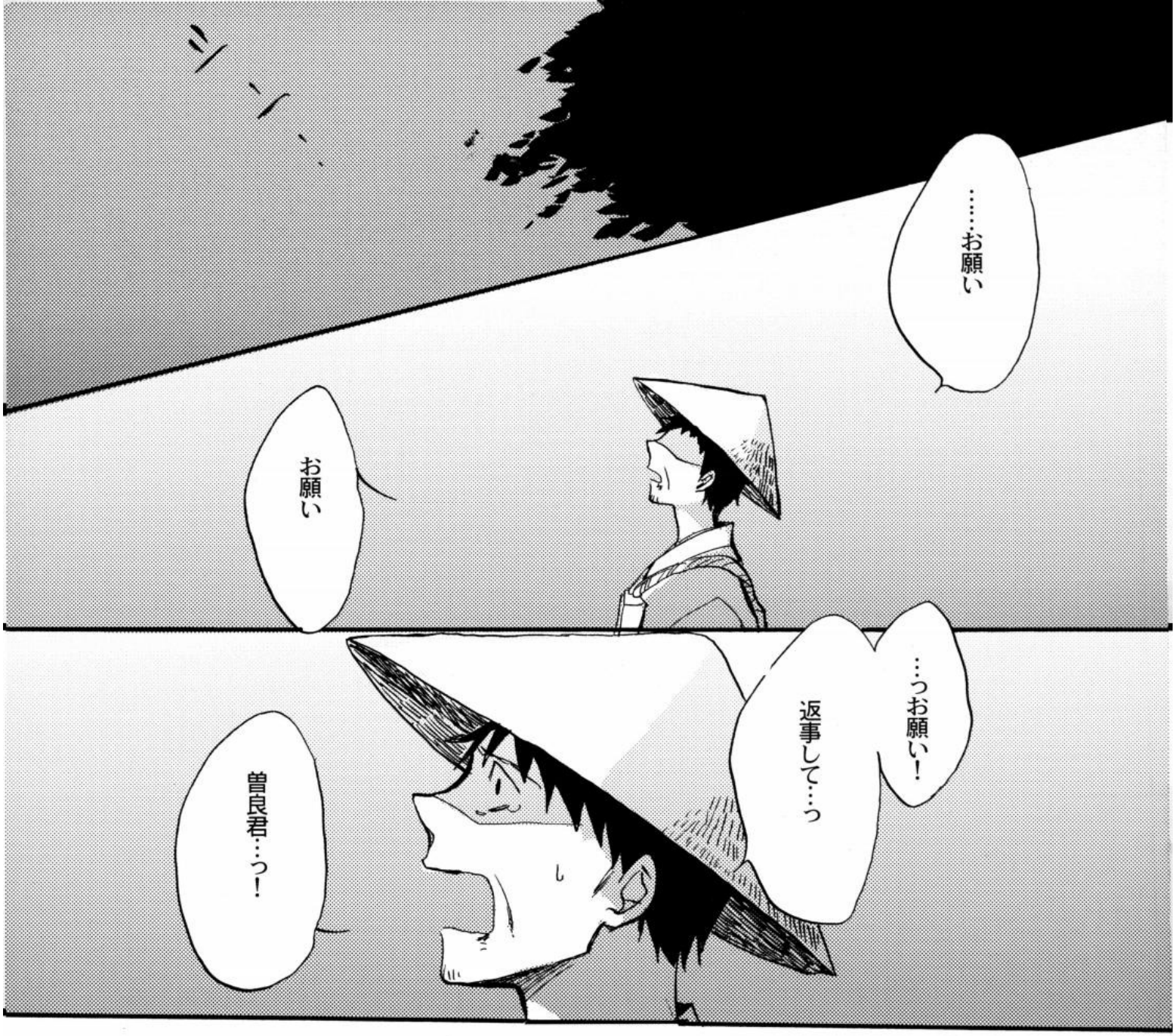

え?

……
曽良君?

嘘
だって私は
何も…

「冗談じゃないですよ
僕がこんな人形に話しかける頭のおかしな奴と仲間なわけないでしょう？
……
……曽…
曽良く…っ
どわっ！
っ…くそっ！
縄でくくられてるから上手く走れな…

ハァー
ハァー
ハァー
スー
ゴボッゴボ
よろ…
曽良君の
鬼弟子ーっ！
月謝払わんかい
ボケェ！
お前
ぶっ飛ばすぞ
コラァ！
ケツ
蹴り上げるぞ
コラァ！
パン
買ってこんかい
ボケェ！



お願いだから！

何故…河合なのですか？

他に
あなたと
道を共にしたい
という者は
大勢居るというのに！

うん

でももう決めたんだ

曽良君が
良いっていったら
同行者に
なってもらおうって

……河合は…
門下の中では
一番歳若く
旅の経験も少ない

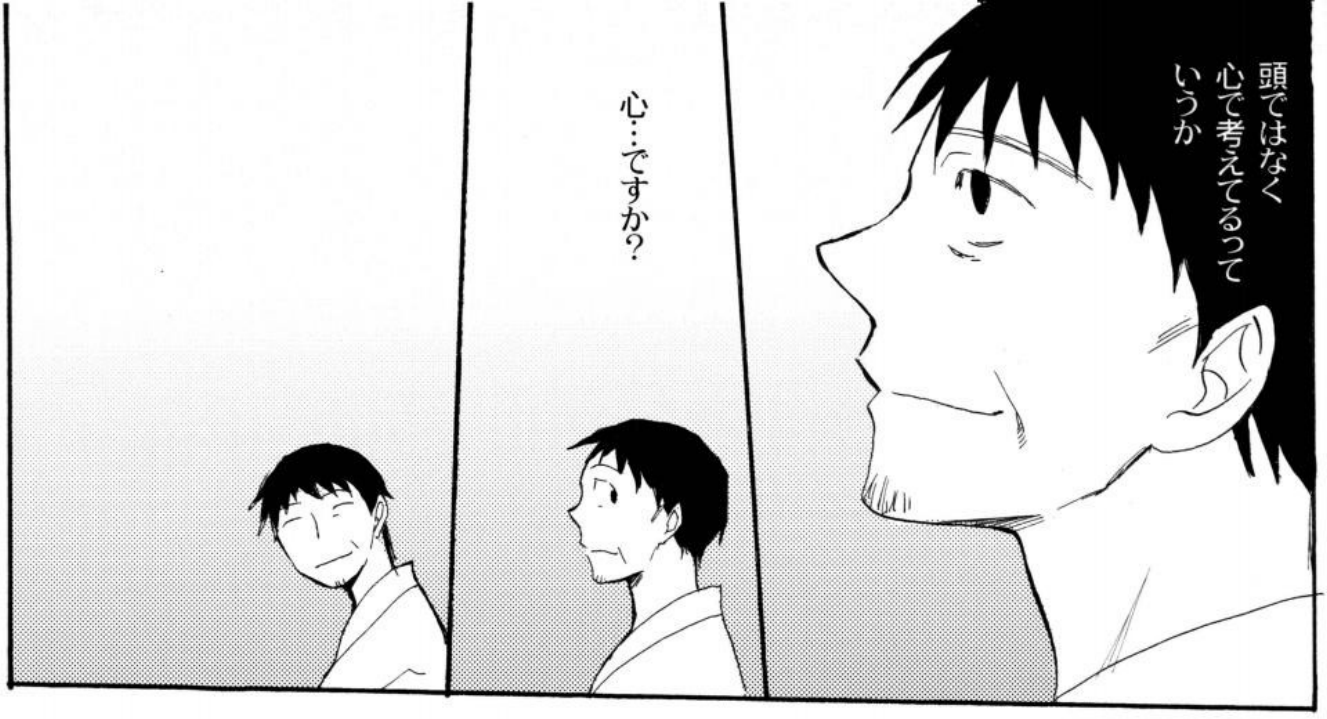
それに…
素行や言動にも
問題が！

師匠であるあなたに
手を上げるなど！

ねぇ君は
句を考えて
いるとき
何を考えてる？

考えている時ですか？
…それは…
良い句を詠むもうと…

ああ…
ごめん
そういう事じゃ
なくてね



曽良君の句は
まだ上手いとはいえないよ

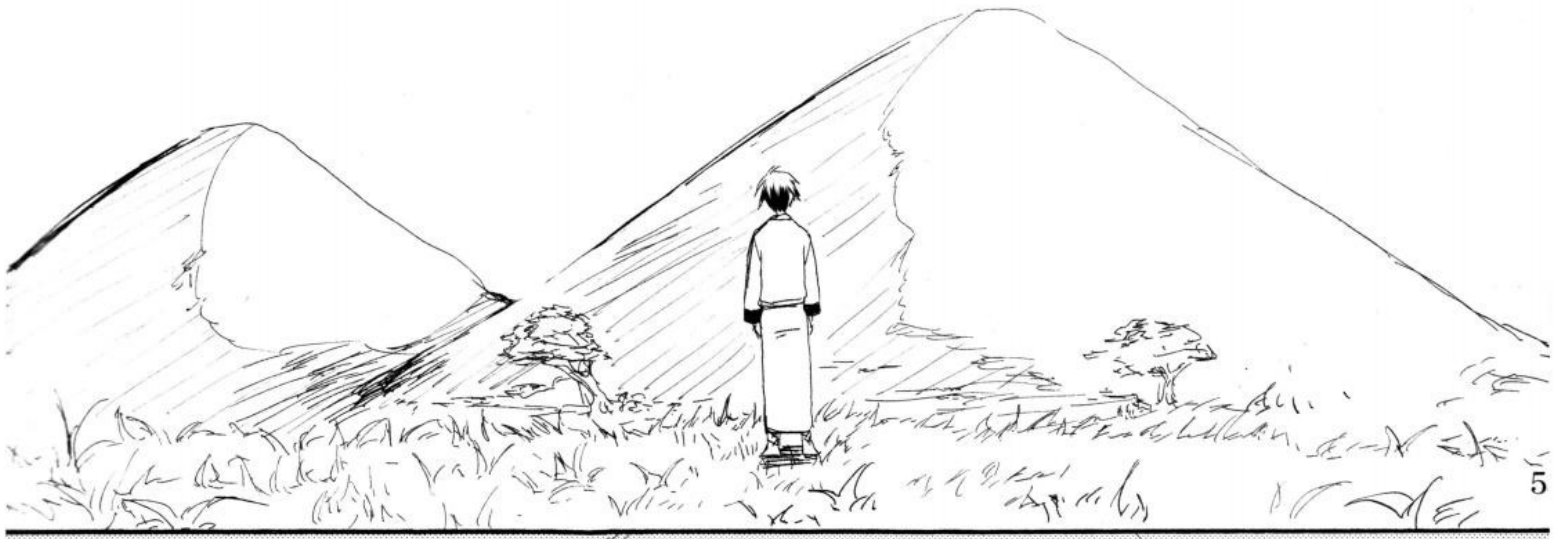
でもね

私彼が自分の
心からたぐり
寄せてるように選ぶ
言葉がとても
好きなんだ

たどたどしいながらも

繊細でとても

綺麗な言葉



彼の句を聞いてると
分かるんだ

いつもの曽良君は
つっけんどんで
暴力的で表情も
あまり変わらないから
何を考えているか
分からない…

でもそれは…

きっと

しかたない事なんだろう

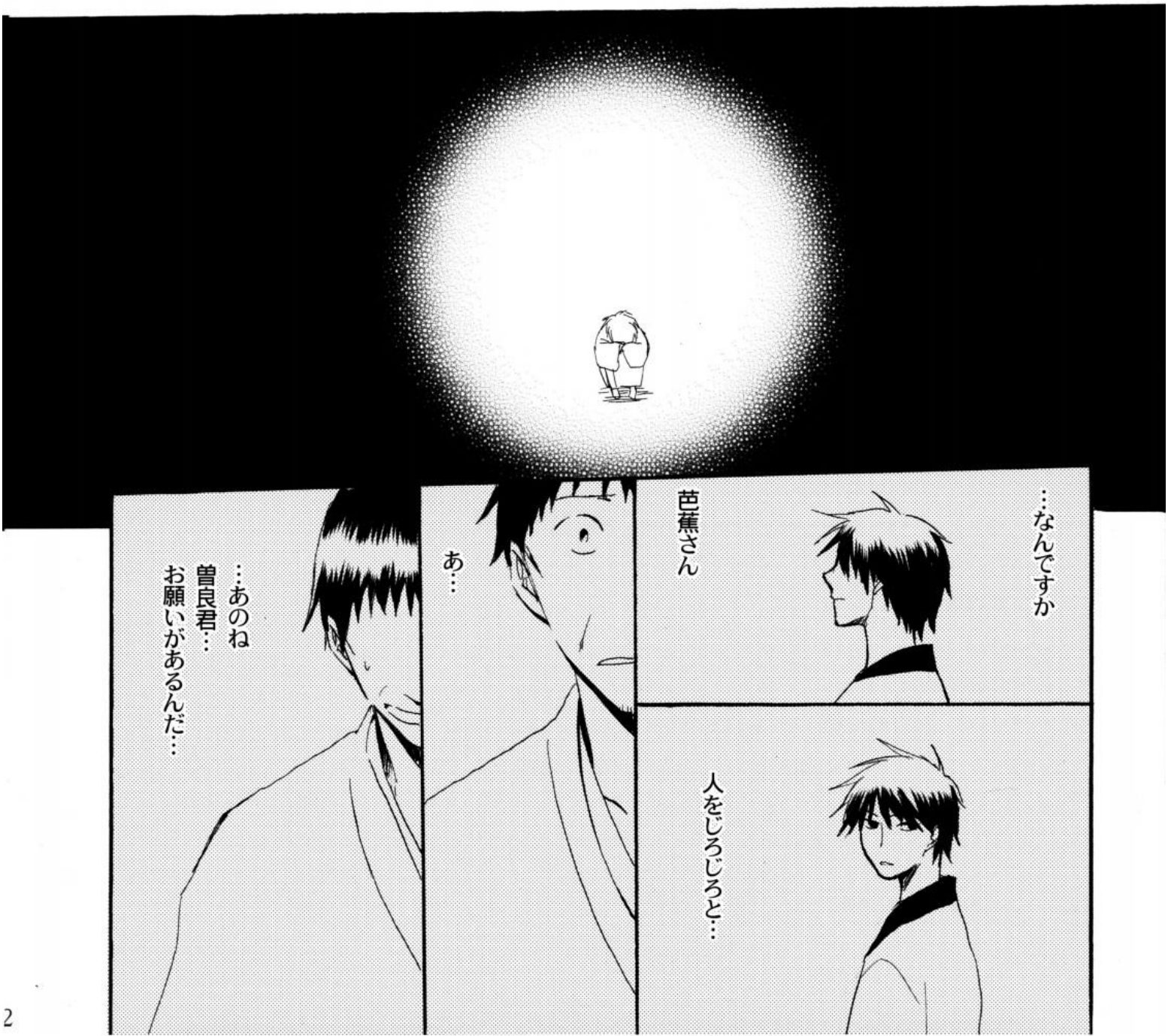
私が
曽良君にふざけて
ちょっかいかけて
初めてぶたれた時
曽良君の方が驚いた
様な顔をしていた
しかられた
子供みたいに

その時

ああこの子は

自分の感情を
うまく操れない子
何だなって

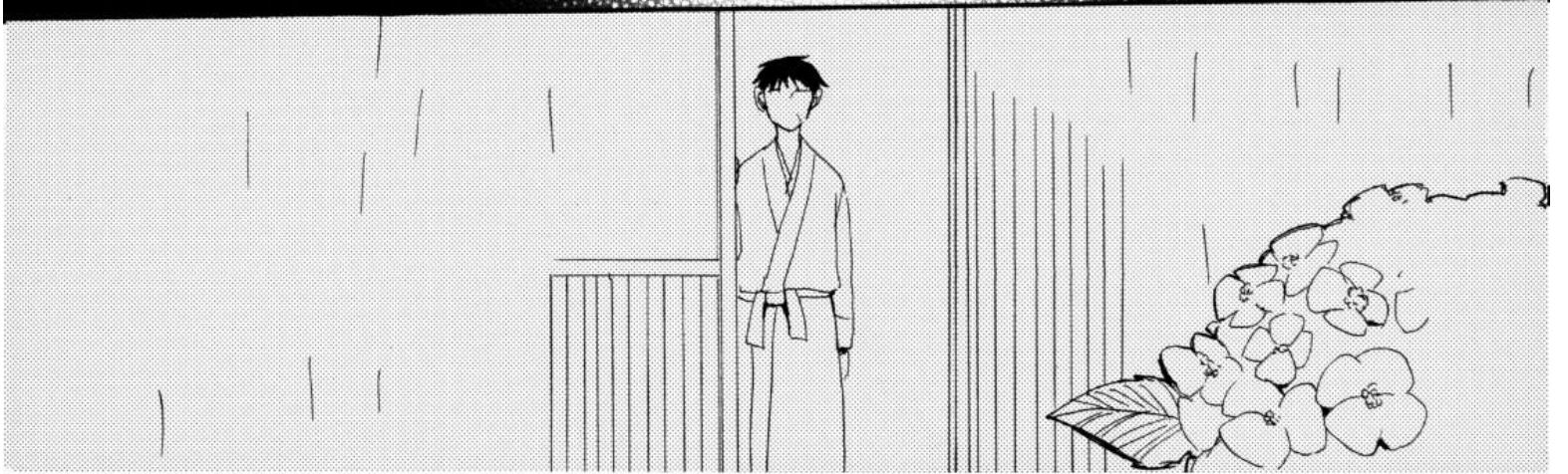
自分の感情が
操れなくて
相手に伝えたい
事があっても
一番簡単な
暴力という方法を
使ってしまう



大事な話があるから…

明日私の家に来てくれない？

この旅に君を誘うのぎりぎりまで迷ってた



危険な旅…
生きて帰れないかも
しれない旅

弟子にしてくれと
ある日君が訪ねてきた

でも…

名前と簡単な経歴しか
言わなかったけど

そんな危険な旅に
君を同行させて
いいんだろうかと

君が良かった

君の事が知りたい

そう思う様になるには
時間はかからなかった

君が良かった

君と一緒が良かった

君といろんなもの見て
思いつく言葉を
紡ぎながら
俳句を詠みたかった

君の言葉を聞いて
いたかった

この旅で…

死ぬ覚悟ででた
この旅で…

もし私が死んだら

君に看取って欲しいと思ったから

駄目だよ
曽良君

駄目だよ

私より先に
死んじゃだめだよ！

よいせ

へへ

そのすかしたツラ
いつまでもつか
見物だぜ
顔は上玉だが
身体の方は
どうだかな
確かめてやるよ

まぁこの顔に身体だ
男の一人や二人くわえこんでるだろうがな
ち、
まただんまりか
おいやめとけよ売りもんに手ぇつけたら値が下がるぜ
うっせえな黙ってろ
……ったく悪ノリしやがって
どうせ初もんじゃねえんだ
別にここで俺がやったとしても分かりゃしねえよ

どうせ
あれだろ
お前と一緒にいた
じじいの稚児さん
でもやってたんだろ?
男二人旅
たまるかんなぁ
まぁ…違っても
きっとあのじいさんも
お前さんの事
やましい目で
見てたに違いねぇ

!
今……
何か…
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
あしあと？

くっ
くそ!
てめぇっ!
てめぇ
どこに隠してやがった
それに
縛ってた
縄は…

もう喋るな
下衆が
このガキッ
なめやがって
ブッ殺してやる
御見事ー

ハァ
ハァ
ハァ
!?
……はぁ
……はぁ…そ
曽良君
ハァ
ハァ
見つけたぁ
ハァ

ばしょうさ…
曲良く…
ビクッ
…
あっ

逃げますよ
芭蕉さん
チッ

ハア
ハア
ハア

ここまでこれば
そうそう追っては
来れないでしょう
いつまで
泣いて
るんですか…

芭蕉さん
……ごめん…
ごめん曽良君
ごめん…
私が旅に
誘わなければ

貴方の道を共に歩んでゆける

それが僕の
ただ二つの願い

何早とちり
してるんですか
芭蕉さん
僕は
何もされて
いません
変な想像しないで
下さい
ほっ本当に!?
…でも…
またこんな事が
おこらないとは
言い切れない
曽良君、君は…
…たいした
事じゃない…
……え?
こんな事…
たいした
事じゃない…

再び道を
失う恐怖に
比べれば

貴方と共に歩めない

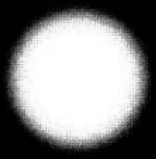
あなたという道を
失う事に
比べれば

人は心に道を持つ

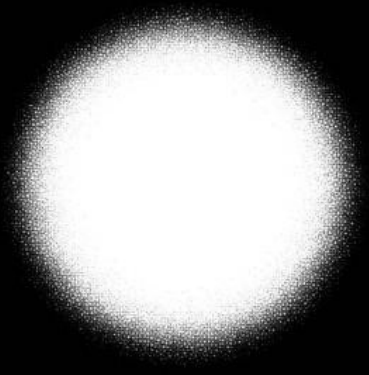
それ故に
時に迷い
時に探り

時に欲する

共に歩む片割れ



道を共にする魂の片割れを



俳句人道

俳句ノ道
下巻

俳句ノ道

上下再録本

ここまで読んで下さって有り難うございました。
芭蕉さんに依存している曽良君が大好きです。（どす恋）
知らぬ間に曽良君に老いらくの恋を抱いている
芭蕉さんも大好きです。（どんと恋）

2008年9月28日
発行元　無糖
発行者　飴
http://mutou607.sakura.ne.jp/
hyr@mutou607.sakura.ne.jp